



平成 24 年も早 9 月になりましたが、今年は岩手県山田町も仙北市同様毎日暑い日が続いております。地元の方々ですら「お盆明けもこんなに暑い日が続くことはないですねえ（山田弁のつもりです）」と言うくらいまだまだ残暑が厳しいです。仙北市の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

4 月の赴任から早いもので半年が過ぎようとしておりますが、前回のレポートでお話した「防災集団移転促進事業」や「高台道路新設事業」などの事業もとりわけ順調に進んでおり、何よりも住民の方々が一致した協力姿勢の賜物だと感謝しております。



◀ 8 月 8 日（水）住民説明会の様子

☆

先日 9 月 2 日日曜日に山田町総合防災訓練が行われました。山田町では職員の居住地毎に非常時参集場所や行動等があらかじめ決められており、津波注意報・警報時の避難勧告など避難所開設時は我々派遣職員も召集され避難所運営

にあたります。当日は朝 5 時 30 分に大地震が発生したとの想定で、津波警報発令→避難勧告→避難所開設といった流れで行われ、自分も山田町で初めての総合防災訓練に参加しました。訓練の一昨日には外国の地震で岩手県沖太平洋にも津波注意報が発令され、昼夜を問わず気が抜けません。



▲自衛隊による瓦礫内の搜索訓練の様子

☆

最後ですが、ちょっとホットな？話題をひとつ書きたいと思います。先日、知り合いの地元漁師さんから、「田口さんも自炊だべえ、晩飯に食べてけろお」と山田産のお魚を頂きました。自分は当然、魚をさばけないのですのですぐに食べれるようにとのお心遣いが大変ありがたく、とても美味しかったのは言うまでもありません。三陸の海の幸は健在だと身をもって確かめました。

前回のレポート後、帰省時によく「どごさ住んでるの？」とか「メシはどうしてる？」とか聞かれましたが、自分は宮古市津軽石という山田町のすぐ隣にある仮設住宅に住んでおり、当然ながら自炊の生活をしております。今後も岩手県山田町リポートを送りたいと思います。お読みいただきありがとうございます。とうございしました。



◀ 地元漁師の方から頂いた今季初秋刀魚の刺身、ウニ、イカ刺しなどの豪華夕食の一品です。

平成 24 年度三館合同企画

## 川端龍子展－日本画家百穂との出会い－

今回は角館町出身の日本画家平福百穂（ひらふくひゃくすい 1877-1933）とゆかりの深い画家川端龍子（かわばたりゅうし 1885-1968）を紹介したいと考え、企画しました。

龍子は、大正、昭和を代表する日本画家です。明治 18(1885) 年、和歌山県に生まれ、10 歳の時に父が新しい職を求め東京に移り住むことになり、家族で上京。絵を描き始めた当時は洋画を専攻。22 歳の時に入社した国民新聞社で平福百穂と席を並べ挿絵を担当しました。百穂の伝統的な日本画の毛筆技法の中に洋画のスケッチ技術を取り入れた描法を目の当たりにし、多大な影響を受けます。29 歳の時に日本画に転向。翌年、百穂らとともに「珊瑚会」を結成。百穂との出会いをきっかけに自身の進むべき方向性を見出し、会場芸術といわれる大型作品の制作で名をなした龍子。

今回、大田区立龍子記念館をはじめ龍子のご遺族の方々の多大なる協力を得て、東北ではなかなか見る機会の少ない龍子の作品を三館で展示することが可能となりました。

川端龍子という大正から昭和にかけて活躍した日本画家について知ることのできる絶好の機会ですので、ぜひ三館へ足をお運び、芸術の秋をご堪能ください。



「山葡萄 1933 年 第 5 回青龍社展」  
大田区立龍子記念館蔵  
© Katsura Kawabata & Minami Kawabata 2012/JAA1200166

### 【記念講演】

日時▶ 10 月 21 日（日） 14：00～  
場所▶ 角館樺細工伝承館 総合研修室  
講師▶ 山平澤勘蔵氏（大田区立龍子記念館長）  
山本文志氏（秋田県立近代美術館学芸主事）

会期 9 月 16 日日  
11 月 23 日祝

会館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで）  
会期中無休

入館料 大人各 300 円 中学生以下無料  
仙北市民は無料

●平福記念美術館 角館町表町上丁 4-4 54-3888  
画家龍子を代表する青龍社展出品作品、軸装作品をはじめ百穂との交流を示す資料等を展示



「立秋 1932 年 第 4 回青龍社展」大田区立龍子記念館蔵  
© Katsura Kawabata & Minami Kawabata 2012/JAA1200166

●角館樺細工伝承館 角館町表町下丁 10-1 54-1700  
家庭人としての龍子の人柄が偲ばれる作品や龍子をめぐる友との交流を示す作品等を展示



「龍子図案 麦藁張り細工」個人蔵  
© Katsura Kawabata & Minami Kawabata 2012/JAA1200166

●新潮社記念文学館 角館町田町上丁 23 43-3333  
多面的な才能を発揮した人間龍子を書簡、書籍、スケッチ等を通してたどる展示



「龍子直筆年賀状」個人蔵  
© Katsura Kawabata & Minami Kawabata 2012/JAA1200166